

サケ稚魚放流情報 No. 2-2



平成22年3月24日
 岩手県水産技術センター
 漁業資源部
 TEL: 0193-26-7915
 FAX: 0193-26-7920
 E-mail: CE0012@pref.iwate.jp
 さんりく基金 北里大学との共同研究

冷水の影響を受けて *Pseudocalanus* の出現数が多い状況です。
 水温や餌料環境の動向、稚魚の飼育密度とサイズに注意しながら適切に放流を進めてください。

1 平成14年から平成18年までの出現状況

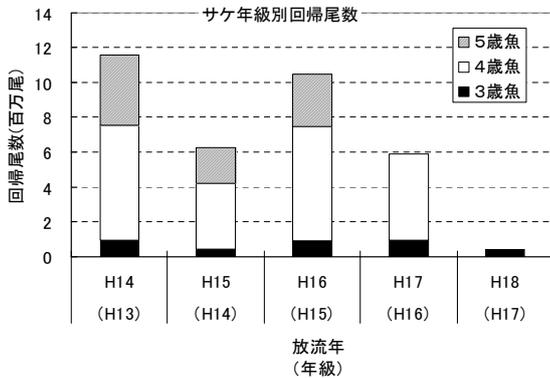


図1 サケの回帰状況

サケの回帰尾数が多かった平成14、16年は、時期を追うごとにプランクトンの増加がスムーズに進行したほか、その他のカイアシ類も加わったため、サケ稚魚が最も成長する5月のプランクトン出現数は多くなっていました。一方、サケの回帰尾数が少なかった平成15、18年（平成18年は3歳のみ）では、これら4種の出現数は4月に多かったものの、5月になると減少しました。

プランクトンの調査を開始した平成14年以降に放流したサケは、平成13年級（平成14年放流）と平成15年級（平成16年放流）の回帰尾数が多くなっています（図1）。

春に特徴的に出現する親潮指標プランクトン4種（別紙図）は、すべての年で4月以降に出現数が多くなっていました（図2）。種別に見ると、始めに小型の *Pseudocalanus* (C) が出現し、続いて大型の *Neocalanus* (A)、*Eucalanus* (B) が増加しましたが、*Temisto* (D) は明瞭な傾向がなく、散発的に出現していました。

2 平成22年の出現状況

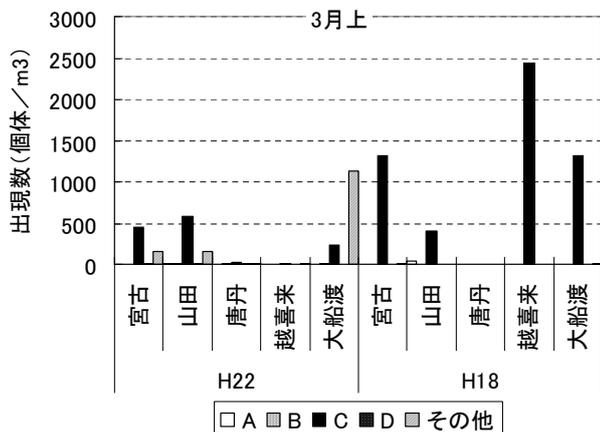


図3 動物プランクトン出現状況

3月8、9日のノルパックネット鉛直20m 曳きで採集された動物プランクトンサンプルを解析した結果、小型の *Pseudocalanus* (C) とその他のカイアシ類の出現数が多い傾向が見られました（図3）。これは、平成18年と同様に、冷水の影響を受けているためと考えられます。

今後、大型の *Neocalanus* (A)、*Eucalanus* (B) の出現数が増加することが予測されます。その動向については、順次お知らせいたします。

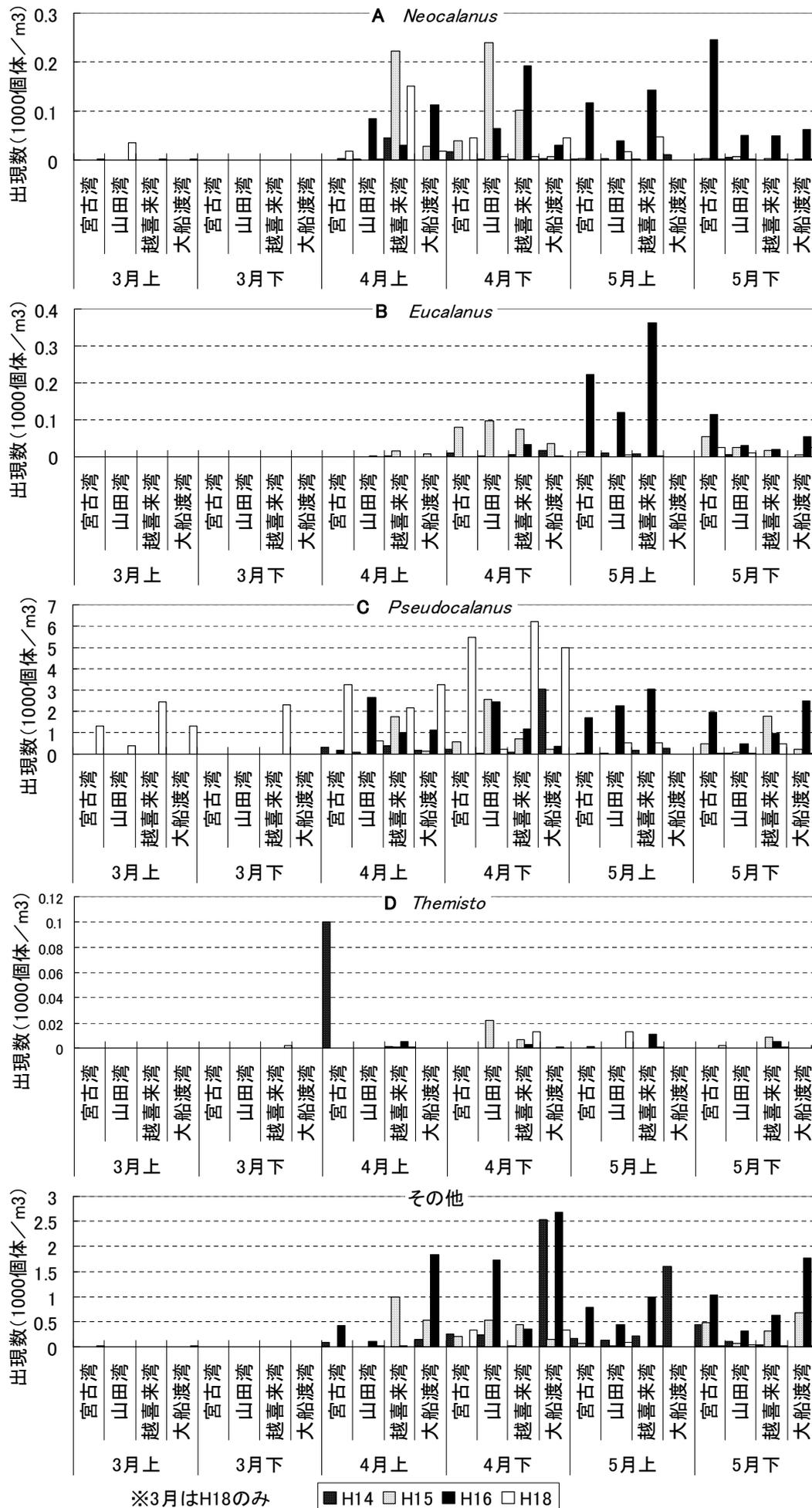


図2 動物プランクトン出現数の推移 (H14~H18)

春期に特徴的に出現するプランクトン4種（いずれも親潮指標種）

A ネオカラヌス・ブルムクルス（もしくはフィレミンジャイ）
Neocalanus plumchrus（もしくは *flemingeri*）



和名なし。
体長 2～4 mm で、典型的な親潮指標種。
特に外洋域に多い。

B ユウカラヌス・ブンギ *Eucalanus bungii*



和名なし。
体長 2～4 mm で、典型的な親潮指標種。
特に外洋域に多い。

C シュードカラヌス・マイヌータス（もしくはニューマニー）
Pseudocalanus minutus（もしくは *newmani*）



和名なし。
体長 1 mm 未満で、親潮指標種。
沿岸から内湾域に多く出現。

D テミスト・ジャポニカ *Themisto japonica*



和名 ニホンウミノミ（地方名スムシ）。
体長 4～10mm で、親潮指標種。
イサダ漁で混獲され、濃密な群れを形成することがある。